

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズサポートみらい 放課後等デイサービス (高江事業所)				公表日	2025年 2月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		本事業所が旧中学校跡地を利用しており、教室や体育館、校庭等を活用した活動を実施している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		法令を遵守している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5		スロープがあるところもあるが段差もある。(限定的に)事業所全体で検討していきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日の掃除やアルコール消毒、週に一度の事業所全体での清掃作業の実施、安全点検を行っている。	利用児童・生徒の実態に応じて、計画的に施設の営繕、補修を進めていく予定である。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		事業所内でのタイムアウトや個別課題の作業スペースを確保している 体育館等使用の際は、事前に予約ができる環境である。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	5		年間スケジュールを組みそれに沿って案会議を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		話し合いを行ったうえでできることは対応している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		全体での研修や日々の振り返りの時間等で、職員の意見を検討し合い、共通実践に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的に行うように計画・実行している。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		担当者が各自作成し、事前に打ち合わせで検討し、修正や改善を加えた後に実施している。毎月、予定表を保護者へ配布し、日々の活動の様子も送迎時等で伝えている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		定期的、計画的に分析し、チーム内で検討し作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎日の振り返りや打ち合わせでの情報共有と協働実践を目指し、全職員で分担しながら、子ども一人ひとりの発達や特性を配慮し、作成と検討を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		長期的な計画に基づき、日々の活動案に従って全職員での協働支援に努めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	必要に応じて使用し、日々の支援に活かしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		全体で研修を行い、職員の資質向上を図っている。案会議でも具体的にどのような支援ができるのか、相互に検討し合っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月案を話し合いで立て、個々が立てた活動計画をチーム全体で細かく練り直している。		

の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		各職員の専門性を活かしながら、それぞれの子どもの実態と目標に応じた活動を展開している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		主に集団活動で計画しているが個別活動も適宜行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		まず職員だけでシミュレーションしてみて必要に応じて変更・分担している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		必ず行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		朝礼、ミーティング、研修記録を累積し、各職員の資質向上と支援の充実につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的、計画的に実施し、職員間で相互に確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		発達や特性に応じて選択肢のある内容であることと、実際に児童が動いて、自らの手で決定する実感が伴うように工夫している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		職員で分担し、事業所間の情報交流に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	現在、医療的ケアが必要な利用児はいない。	今後、必要に応じて、連携して支援できる体制づくりに努めていきたい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		メールや日々の児童・生徒の送迎時での情報交換、ケース会議等で、実務者間の連絡調整は、積極的に、且つ適切に行われている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	行なっている児童と、行っていない児童がいる。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	徐々に始めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		職員で分担し、課題意識をもって参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々の送迎時の対面での会話、電話、メール、連絡帳等でのやり取りで共有し、協働体制で子どもに向き合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		一度、隣接する事業所で学習会と茶話会を共同で実施した。今後も計画していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学や契約時に、担当者から時間を確保して、一つひとつ確認しながら進めている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者との定期的な面談をはじめ、子どもたちもふれあい、対話する時間を多く作り、思いを引き出すことに努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		契約時や定期的な面談で、書面にて確認してもらい、情報を交換、共有の上で同意を得ることに努めている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談に対して、「いつでも、どこでも、どんなことでも」一緒に、寄り添いながら対応することを心がけている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4		必要性を感じながら、なかなか日程の調整が難しいと感じている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		真摯に誠実に対応し、職員間で再発防止策まで話し合い、今後の支援に活かす努力をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		あらゆる手段で情報を発信し、安心して利用できる体制づくりに努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		事業所のマニュアルに基づき、細心の注意をはらい、運営している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもの特性に応じた支援と情報を精選して、日々の支援に尽力している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		子どもの実態を考慮しながら、段階的に運営を検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルに基づき、訓練や環境整備を実施し、理解と協力をお願いしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		計画的に実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時の確認、日々の連絡帳や送迎時の対話でも健康面についての連携を図り、職員間でも情報の共有と二重のチェックを行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		該当児童生徒を受け入れた場合対応	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		事業所内で安全計画、マニュアルを作成し、定期的、継続した研修を実施している。さらに、毎週の部署清掃の時間での安全点検も行い、日々の支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		定期的な面談時や送迎時等で、子どもたちの様子、それに伴う配慮事項や安全面の確保について、具体的に伝えている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		一つの事案から学ぶことが多くあることを認識し、問題意識をもちながら、日々の療育活動に携わっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を通じて、虐待に関する知識理解に努め抑止力としても啓発活動を行なっている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		事業所全体で、職員研修を行い、意見交換した。		